

町政を問う
一般質問

駒止湿原入り口に待機小屋設置を

町長＝待機小屋は今後の研究課題

問

駒止湿原へのアクセス道路、町道東106号線は台風19号により再び不通となった。

これまで4年間「駒止湿原案内の会」による定期的パトロールが実施され、今後も続きます。

そのパトロール中、天候の急変による風や降雨時の待機小屋がありません。

案内の会や訪れた人たちが身を守る待機小屋の設置が必要と考えますが。

町長

待機小屋を湿原入り口

付近の駐車場の一部に設置すれば、駐車可能台数が減り入山者の利便性が低下します。

来年度以降、入山者数の推移や必要性の有無を含め、待機小屋のあり方を今後の研究課題とします。



駒止湿原山開きのようす（令和元年10月6日撮影）

人口減少に対応した行政システム導入は

町長＝行政区同士での連携などを支援

問

今後、さらに人口減少が進み地区の行事を地区内の人だけでは実施できない状況も増えていきます。

総務委員会で見察し

た島根県邑南町むつみんは面積420km²、人口約1万人で、12ある公民館ごとに館長が中心となつて職員と住民により、地区別戦略で魅力ある事業を次々に実施してきました。

そこで本町も、顔の見えるサービスができる96の行政区は今後も残しつつ、隣接した複数の行政区を一つにした、ひとまり大きい行政システムを導入する考えは。

町長

現在、歳の神などの行事を近隣行政区と連携し実施している地域がある事は把握しています。

町主導で、複数の行政区をまとめた行政システム導入は考えていません。

今後、行政区同士での連携や一体的な事業実施についての要望があった場合は、町としても支援していく考えです。

その他の質問

・スマホのSNSによる犯罪から子ども達を守るために